

共通テスト後に変更した出願校を第 1 志望にできる受験生の特徴

—K 大学一般選抜前期日程入学者における 10 年間の動向より—

竹内 正興 (香川大学)

国立大学一般選抜では、共通テストの自己採点結果に基づく事後出願方式により、共通テスト前の志望校を変更して出願する受験生が多く見られる。本研究では、K 大学入学者に対する 10 年間の調査結果から、共通テスト後に志望校を変更（決定）しても、変更者の中の 1/4 前後の入学者が第 1 志望校としていることがわかった（一般選抜前期日程）。また、共通テスト後の志望校変更者における第 1 志望者と第 2 志望以下の者との出願決定理由を比較した場合、第 1 志望者は大学入学後の学びの内容や環境について第 2 志望以下の者よりも選択率が高い傾向が見られた。大学入学後の学びの内容や環境を重視した出願が、第 1 志望率を高める可能性が示唆されたといえる。

キーワード：国立大学一般選抜，第 1 志望校，共通テスト後，自己選抜，出願決定理由

1 問題の所在

本研究は、国立大学一般選抜前期日程において、共通テスト（現在の大学入学共通テスト）後の出願直前期に変更（決定）した受験校を第 1 志望にできる受験生の特徴を出願決定理由より検討することを目的とする。

国立大学一般選抜の受験校決定時期については、半数近くが共通テスト後という調査結果が複数見られる（寺下他，2008；吉村・木村，2010；高地，2014）。この共通テスト後の受験校決定時期の割合が高いことに関して木村・林（2016）は、「受験生は、大学入試センター試験の自己採点后に、主に受験産業が予測する推定された合格確率を元に、出願判断を行う」と述べていることや、内田他（2018）が、「大学出願時には、センター試験の自己採点の結果と、大学・学部部の難易度を照らし合わせることで、出願先がシフトする」と指摘しているように、共通テスト後の自己採点による事後出願方式が共通テスト後の受験校決定時期の割合を高めていることが窺える。また、受験生を指導する高校側でも、共通テストの自己採点結果に基づき、「期待通りに得点できた場合」、「やや失敗した場合」、「大失敗した場合」等に各受験生を分類し、予定していた志望校に出願するのか、あるいは、志望順位を下げた志望校に出願するのかについて指導している（螢雪時代，2019）。一方、受験校の出願決定理由について、吉村・木村（2010）は、「国立大学である」の選択肢が高いことを指摘している。

このように、国立大学一般選抜における共通テスト後の出願校の変更は、合格率を高める一方で第 1 志望校への出願を断念させる仕組みとなっている。荻谷（1986）はこの仕組みを自己選抜と呼び、日本の教育選抜の制度的特徴を反映しているとしている。そして、「日本の高校生は、あやふやな夢など追い求めることができない。それほどまでに、大学に入れるかどうかを判定する能力についての、十分に明確な、夢や読み誤りを許さない情報が提供されている」と指摘している（荻谷，1995）。また、鈴木（2009）は、共通テスト後の自己採点について、「自己選抜によって低得点者による志願断念を決意させ、志願者と大学とを円滑に接続する上で重要な役割を果たしている」と述べている。つまり、共通テスト後の出願校変更（決定）者の多くは出願直前期の自己選抜を経て、第 1 志望校を断念し合格が見込める第 2 志望以下の大学・学部等を受験校として決定している可能性が考えられる。

では、共通テスト後の出願直前期に自己選抜を経て変更（決定）した受験校の志望順位は、基本的に第 2 志望以下となると考えてよいのだろうか。また、第 1 志望校として設定できる者の出願決定理由にはどのような特徴が見られるのだろうか。本研究では、上記の 2 つの問いを設定し、アンケート調査より検討する。

2 調査概要

2.1 調査時期・対象・方法

調査は質問紙調査法の形式で、2014～2023 年度の

10 年間に於いて、K 大学の一般選抜前期日程を経て 4 月に入学した学部 1 年生のうち、入学時アンケートに協力した 7,044 人を対象とした。年度別の回収率、および、一般選抜前期日程の実質倍率（受験者数／合格者数）は表 1 に示している。K 大学は、四国地区に所在し複数の学部を有する国立の総合大学である。一般選抜前期日程は全学部で実施しており、2014～2023 年度の 10 年間に於ける一般選抜前期日程を経ての入学者の割合は入学者全体の 55.5% を占めている。

表 1 アンケート回収件数・回収率と実質倍率 10 年間の推移

年度	入学者数	回収件数	回収率	実質倍率
2014年度	663	663	100%	2.3
2015年度	680	680	100%	1.8
2016年度	688	688	100%	2.4
2017年度	705	705	100%	2.2
2018年度	710	709	99.86%	2.1
2019年度	704	704	100%	2.0
2020年度	725	724	99.86%	1.9
2021年度	739	738	99.86%	1.9
2022年度	720	720	100%	2.4
2023年度	713	713	100%	1.7
計・平均	7047	7044	99.96%	2.1

2.2 質問項目

K 大学の志望順位に関する質問は、「第 1 志望」「第 2 志望」「第 3 志望」「第 4 志望以下」から 1 つを選択、受験校決定時期の質問は、「高校入学前」、「高校 1 年」、「高校 2 年」、「高校 3 年 4 月～6 月」、「高校 3 年 7 月～9 月」、「高校 3 年 10 月～1 月（共通テスト前）」、「高校 3 年 1 月（共通テスト後）～3 月」、「高校卒業後」から 1 つを選択してもらった。また、受験校決定理由に関する質問は 29 項目（表 2）とし、該当する項目を全て選択してもらった。なお、質問票には調査の趣旨として、「この調査は、K 大学をもっと魅力ある大学にし、大学が提供する教育の成果・効果を高めるための基礎資料とするために、入学生の方を対象に調査させていただきます。この調査の一部項目は追跡調査を予定しておりますので、受験番号を忘れずに記入してください。調査の分析は全て個人が特定できないよう処理しますので、あなたに個人的なご迷惑をおかけすることは一切ありません。また、記入いただいた情報の管理に万全を期し、情報漏洩がないように対処します。ご協力をお願いいたします」という文章を記載し、倫理的な配慮を行っている。

表 2 受験校決定理由についての質問項目（複数選択可）

1. 学びたい学部・学科がある
2. 専門教育が充実している
3. 語学教育が充実している
4. 情報技術（IT）教育が充実している
5. 実習教育が充実している
6. 授業内容がおもしろそう
7. 教授陣が充実している
8. 校風がよい
9. キャンパスや校舎がきれい
10. 施設・設備が充実している
11. 立地や環境がよい
12. 自宅通学ができる
13. 交通の便がよい
14. 入試の難易度（共通テストの得点）が合っている
15. 試験科目が自分にあっている
16. 自分にあったクラブ・サークルがある
17. 授業料が安い
18. 奨学金が充実している
19. 就職状況がよい
20. 就職支援体制が整っている
21. 資格や免許取得に有利
22. 海外留学制度が整っている
23. 歴史・伝統がある
24. 知名度が高い
25. 社会で活躍している卒業生が多い
26. オープンキャンパスの印象がよかった
27. 進学相談会等の印象がよかった
28. 国立大学だから
29. 経済的理由から

2.3 分析手法

1 点目の問いとして設定した「共通テスト後の出願直前期に自己選抜を経て変更（決定）した受験校の志望順位は、基本的に第 2 志望以下となると考えてよいのか」を検証するため、一般選抜前期日程を経て入学した者の共通テスト後の受験校決定者の割合を、全体および、志望順位別に 10 年間の推移から検討する。

2 点目の問いとして設定した「第 1 志望校として設定できる者の出願決定理由にはどのような特徴が見られるのか」の検証にあたっては、共通テスト後の受験校決定者の出願決定理由について、はじめに、第 1 志望者の項目別選択率の過去 10 年間の状況を確認する。次に、第 1 志望者と第 2 志望以下の者との間で統計的有意差が見られた項目に着目し、共通テスト後に決定した受験校を第 1 志望とした者の出願決定理由の特徴を検討する。

3 結果

3.1 共通テスト後の受験校決定者の第 1 志望率の推移

はじめに、K 大学一般選抜前期日程を経て入学した者（全体）の第 1 志望率の推移を見ると、2014 年度～2020 年度は 40% 台後半、2021 年度以降は 50% 台前半の年度が多かった。また、2023 年度は調査を行った 10 年間で最も高い 54.8% となった（表 3）。

次に、1 点目の問いである「共通テスト後の出願直

前期に自己選抜を経て変更（決定）した受験校の志望順位は、基本的に第2志望以下となると考えてよいのかを検証するため、一般選抜前期日程を経て入学した者の共通テスト後の受験校決定者の割合を確認した。結果は、全体では50%前後の年度が多かった（表4）。また、共通テスト後の受験校決定者における第1志望者の割合は25%前後、第2志望以下の者の割合は75%前後の年度が目立った（図1）。

K 大学一般選抜前期日程を経た入学者については、共通テスト後に志望校を変更（決定）しても、変更者の中の1/4前後の入学者が第1志望校として設定していることがわかった。

表3 一般選抜前期日程 第1志望者 10年間の推移
(人数と割合)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
第1志望率	45.3%	47.4%	41.9%	47.3%	46.9%	44.8%	46.8%	50.8%	51.5%	54.8%
第1志望者数	296	320	283	331	328	314	332	370	370	389
人数計	653	675	676	700	699	701	710	728	719	710

表4 一般選抜前期日程 共通テスト後の受験校決定者
10年間の推移 (人数と割合)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
割合	50.5%	50.2%	54.4%	50.3%	49.1%	49.9%	49.4%	48.9%	50.9%	45.5%
人数	330	339	368	352	343	350	351	356	366	323
人数計	653	675	676	700	699	701	710	728	719	710

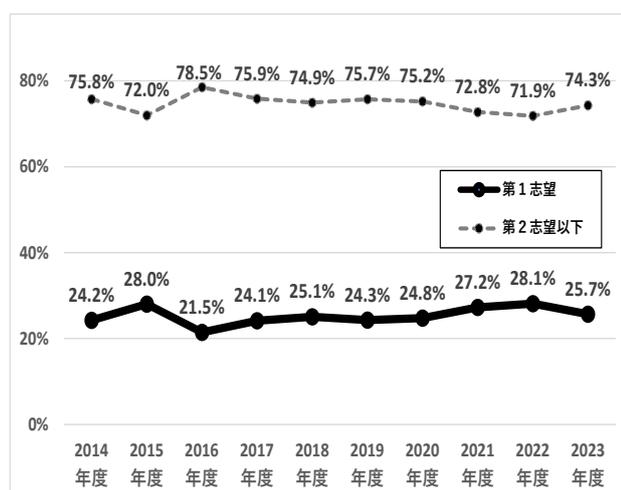


図1 一般選抜前期日程 共通テスト後の受験校決定者
第1志望者と第2志望以下の者の10年間の推移 (割合)

3.2 共通テスト後の受験校決定者の出願校決定理由

2点目の問いである「第1志望校として設定できる者の出願決定理由にはどのような特徴が見られるの

か」を検証するため、はじめに、共通テスト後の受験校決定者の出願決定理由について、第1志望者の項目別選択率の過去10年間の状況を確認したところ、「1. 学びたい学部・学科がある」が全ての年度において選択率が80%を超え最も高かった。次いで、「14. 入試の難易度（共通テストの得点）が合っている」「28. 国立大学だから」「15. 試験科目が自分にあっている」の10年平均の選択率がそれぞれ65.7%、61.8%、50.4%となり50%を超えた（表5）。このうち、「28. 国立大学だから」の選択率が高い傾向は、吉村・木村（2010）の先行研究と一致している。

また、10年平均の選択率が50%を超えた4項目の10年間の推移を折れ線グラフで示したのが図2である。「28. 国立大学だから」を除く3項目は、10年間の推移で見ると、選択率がやや右肩下がりとなっており、低下傾向であることが窺える。

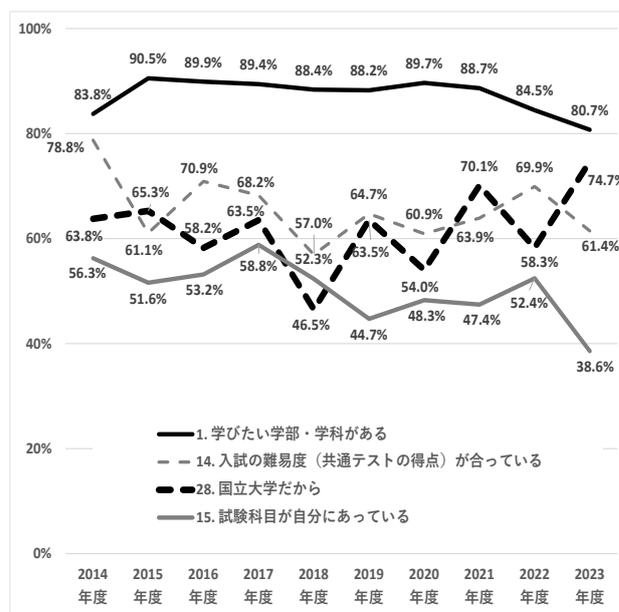


図2 一般選抜前期日程 共通テスト後の受験校決定者
第1志望者出願決定理由 (割合)
10年平均の選択率 上位4項目の10年間の推移

次に、第1志望者の10年平均の選択率が50%を超えた「1. 学びたい学部・学科がある」「28. 国立大学だから」「14. 入試の難易度（共通テストの得点）が合っている」「15. 試験科目が自分にあっている」の4項目の出願決定理由について、第2志望以下の者との間に差が見られたのかどうかを、10年平均、および、各年度について統計的分析（カイ二乗検定）により確認したところ、「1. 学びたい学部・学科がある」が、10年平均、および、2015年度、2016年度

において統計的有意差が見られ、第1志望者の選択率が第2志望以下の者よりも高かった。反対に、「14. 入試の難易度（共通テストの得点）が合っている」については、10年平均、および、2018～2021年度の4年間と2023年度において統計的有意差が見られ、2014年度を除き第1志望者の選択率が第2志望以下の者よりも低かった（表6、 $p<.01$, $p<.05$ ）。

また、10年平均の選択率が50%を超えた前述の4項目、および、10年平均、または、複数年度において、第1志望者と第2志望以下の者との間に統計的有意差が見られた項目を抽出したところ、第1志望者の

選択率が第2志望以下の者よりも高かったのが、「1. 学びたい学部・学科がある」「2. 専門教育が充実している」「6. 授業内容がおもしろそう」「5. 実習教育が充実している」「10. 施設・設備が充実している」の5項目となった。反対に、第1志望者の選択率が第2志望以下の者よりも低かったのが、「14. 入試の難易度（共通テストの得点）が合っている」の1項目に留まり、大学入学後の教育・研究内容や施設・設備の充実度において、第1志望者の選択率が第2志望以下の者よりも高い項目が多い結果となった。

表5 一般選抜前期日程 共通テスト後の受験校決定者 第1志望者出願決定理由 (2014～2023年度)

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	10年平均
1. 学びたい学部・学科がある	83.8%	90.5%	89.9%	89.4%	88.4%	88.2%	89.7%	88.7%	84.5%	80.7%	87.4%
14. 入試の難易度（共通テストの得点）が合っている	78.8%	61.1%	70.9%	68.2%	57.0%	64.7%	60.9%	63.9%	69.9%	61.4%	65.7%
28. 国立大学だから	63.8%	65.3%	58.2%	63.5%	46.5%	63.5%	54.0%	70.1%	58.3%	74.7%	61.8%
15. 試験科目が自分に合っている	56.3%	51.6%	53.2%	58.8%	52.3%	44.7%	48.3%	47.4%	52.4%	38.6%	50.4%
11. 立地や環境がよい	15.0%	28.4%	25.3%	28.2%	22.1%	27.1%	20.7%	32.0%	32.0%	33.7%	26.5%
17. 授業料が安い	28.8%	18.9%	12.7%	28.2%	22.1%	17.6%	19.5%	32.0%	21.4%	30.1%	23.1%
2. 専門教育が充実している	13.8%	17.9%	20.3%	20.0%	15.1%	20.0%	32.2%	20.6%	12.6%	26.5%	19.9%
6. 授業内容がおもしろそう	23.8%	14.7%	15.2%	22.4%	18.6%	14.1%	21.8%	21.6%	16.5%	27.7%	19.6%
12. 自宅通学ができる	15.0%	10.5%	15.2%	14.1%	12.8%	16.5%	14.9%	17.5%	16.5%	13.3%	14.6%
19. 就職状況がよい	17.5%	21.1%	7.6%	11.8%	17.4%	9.4%	11.5%	18.6%	11.7%	9.6%	13.6%
5. 実習教育が充実している	10.0%	7.4%	13.9%	8.2%	15.1%	10.6%	18.4%	15.5%	12.6%	19.3%	13.1%
10. 施設・設備が充実している	11.3%	11.6%	12.7%	10.6%	9.3%	14.1%	17.2%	14.4%	8.7%	14.5%	12.4%
29. 経済的理由から	7.5%	14.7%	12.7%	11.8%	8.1%	16.5%	12.6%	13.4%	9.7%	14.5%	12.1%
8. 校風がよい	12.5%	12.6%	13.9%	10.6%	14.0%	15.3%	10.3%	12.4%	9.7%	6.0%	11.7%
21. 資格や免許取得に有利	11.3%	8.4%	8.9%	10.6%	8.1%	4.7%	4.6%	5.2%	7.8%	14.5%	8.4%
16. 自分にあったクラブ・サークルがある	8.8%	8.4%	10.1%	9.4%	8.1%	3.5%	12.6%	8.2%	3.9%	8.4%	8.2%
9. キャンパスや校舎がきれい	5.0%	11.6%	7.6%	11.8%	4.7%	3.5%	9.2%	6.2%	9.7%	3.6%	7.3%
13. 交通の便がよい	6.3%	7.4%	7.6%	7.1%	9.3%	3.5%	11.5%	6.2%	10.7%	2.4%	7.2%
24. 知名度が高い	6.3%	6.3%	6.3%	4.7%	5.8%	4.7%	2.3%	8.2%	1.9%	10.8%	5.7%
7. 教授陣が充実している	6.3%	4.2%	6.3%	4.7%	7.0%	3.5%	4.6%	4.1%	10.7%	6.0%	5.7%
23. 歴史・伝統がある	3.8%	11.6%	8.9%	1.2%	4.7%	4.7%	5.7%	3.1%	2.9%	10.8%	5.7%
26. オープンキャンパスの印象がよかった	5.0%	6.3%	6.3%	10.6%	5.8%	10.6%	4.6%	2.1%	0%	6.0%	5.7%
22. 海外留学制度が整っている	5.0%	3.2%	3.8%	8.2%	3.5%	5.9%	4.6%	8.2%	8.7%	4.8%	5.6%
20. 就職支援体制が整っている	7.5%	6.3%	2.5%	7.1%	5.8%	1.2%	4.6%	2.1%	1.0%	2.4%	4.0%
3. 語学教育が充実している	5.0%	5.3%	2.5%	4.7%	3.5%	3.5%	2.3%	3.1%	4.9%	4.8%	4.0%
4. 情報技術（IT）教育が充実している	3.8%	5.3%	1.3%	3.5%	3.5%	0%	4.6%	4.1%	2.9%	6.0%	3.5%
18. 奨学金が充実している	2.5%	1.1%	1.3%	3.5%	2.3%	2.4%	1.1%	4.1%	3.9%	2.4%	2.5%
25. 社会で活躍している卒業生が多い	3.8%	2.1%	1.3%	2.4%	2.3%	0%	2.3%	1.0%	2.9%	2.4%	2.0%
27. 進学相談会等の印象がよかった	1.3%	0%	2.5%	0%	1.2%	2.4%	1.1%	0%	0%	0%	0.8%

*数値は選択率（%）。10年平均の選択率の高い項目順に記載。太字・網掛けは、50%以上の選択率を示す。

表6 一般選抜前期日程 共通テスト後の受験校決定者 出願決定理由
第1志望 VS 第2志望以下 カイ二乗検定 (2014~2023年度)

		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	10年平均
		年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	
1. 学びたい学部・学科がある	第1志望	83.8%	90.5%	89.9%	89.4%	88.4%	88.2%	89.7%	88.7%	84.5%	80.7%	87.4%
	第2以下	74.8%	79.1%	78.5%	80.1%	80.5%	84.5%	81.4%	79.9%	83.7%	80.8%	80.4%
	p値	0.098	0.013*	0.023*	0.051	0.098	0.399	0.074	0.054	0.685	0.982	0.000**
14. 入試の難易度 (共通テストの得点) が合っている	第1志望	78.8%	61.1%	70.9%	68.2%	57.0%	64.7%	60.9%	63.9%	69.9%	61.4%	65.7%
	第2以下	74.4%	70.9%	74.4%	71.5%	75.5%	76.6%	78.4%	76.8%	76.4%	72.9%	74.8%
	p値	0.431	0.080	0.531	0.560	0.001**	0.030*	0.001**	0.014*	0.197	0.049*	0.001**
28. 国立大学だから	第1志望	63.8%	65.3%	58.2%	63.5%	46.5%	63.5%	54.0%	70.1%	58.3%	74.7%	61.8%
	第2以下	59.2%	59.4%	59.2%	57.7%	65.0%	59.6%	58.0%	67.2%	66.2%	70.4%	62.2%
	p値	0.469	0.322	0.880	0.339	0.002**	0.521	0.521	0.599	0.157	0.456	0.895
15. 試験科目が自分にあってい	第1志望	56.3%	51.6%	53.2%	58.8%	52.3%	44.7%	48.3%	47.4%	52.4%	38.6%	50.4%
	第2以下	44.8%	41.8%	40.5%	43.1%	48.2%	52.1%	47.0%	52.1%	55.5%	46.7%	47.2%
	p値	0.074	0.104	0.044*	0.011*	0.513	0.237	0.832	0.430	0.594	0.200	0.204
11. 立地や環境がよい	第1志望	15.0%	28.4%	25.3%	28.2%	22.1%	27.1%	20.7%	32.0%	32.0%	33.7%	26.5%
	第2以下	22.0%	20.1%	24.6%	16.5%	21.4%	23.4%	24.6%	21.6%	29.7%	22.5%	22.6%
	p値	0.176	0.098	0.891	0.017*	0.893	0.493	0.454	0.043*	0.656	0.043*	0.091
17. 授業料が安い	第1志望	28.8%	18.9%	12.7%	28.2%	22.1%	17.6%	19.5%	32.0%	21.4%	30.1%	23.1%
	第2以下	15.2%	18.0%	15.2%	22.8%	18.3%	17.0%	17.0%	20.5%	25.1%	20.0%	18.9%
	p値	0.007**	0.845	0.568	0.312	0.438	0.887	0.597	0.023*	0.452	0.057	0.076
2. 専門教育が充実している	第1志望	13.8%	17.9%	20.3%	20.0%	15.1%	20.0%	32.2%	20.6%	12.6%	26.5%	19.9%
	第2以下	12.4%	15.2%	15.6%	16.5%	14.8%	15.5%	12.9%	12.4%	14.4%	12.9%	14.2%
	p値	0.753	0.537	0.321	0.455	0.941	0.329	0.000**	0.049*	0.650	0.004**	0.009**
6. 授業内容がおもしろそう	第1志望	23.8%	14.7%	15.2%	22.4%	18.6%	14.1%	21.8%	21.6%	16.5%	27.7%	19.6%
	第2以下	14.8%	10.2%	13.1%	12.4%	11.7%	15.5%	11.4%	9.7%	14.1%	13.8%	12.7%
	p値	0.063	0.244	0.639	0.024*	0.103	0.762	0.014*	0.003**	0.554	0.004**	0.000**
5. 実習教育が充実している	第1志望	10.0%	7.4%	13.9%	8.2%	15.1%	10.6%	18.4%	15.5%	12.6%	19.3%	13.1%
	第2以下	7.2%	7.4%	6.9%	7.9%	5.8%	8.3%	7.2%	9.7%	7.2%	7.1%	7.5%
	p値	0.418	0.998	0.047*	0.913	0.007**	0.519	0.003**	0.122	0.100	0.002**	0.001**
10. 施設・設備が充実している	第1志望	11.3%	11.6%	12.7%	10.6%	9.3%	14.1%	17.2%	14.4%	8.7%	14.5%	12.4%
	第2以下	7.6%	7.0%	8.0%	8.6%	9.7%	9.1%	9.1%	8.1%	8.4%	4.6%	8.0%
	p値	0.308	0.166	0.195	0.581	0.908	0.181	0.036*	0.074	0.908	0.003**	0.000**
21. 資格や免許取得に有利	第1志望	11.3%	8.4%	8.9%	10.6%	8.1%	4.7%	4.6%	5.2%	7.8%	14.5%	8.4%
	第2以下	4.0%	10.2%	6.9%	7.9%	5.8%	6.8%	8.0%	5.8%	8.7%	7.1%	7.1%
	p値	0.015*	0.611	0.558	0.434	0.451	0.490	0.291	0.816	0.762	0.043*	0.278
20. 就職支援体制が整っている	第1志望	7.5%	6.3%	2.5%	7.1%	5.8%	1.2%	4.6%	2.1%	1.0%	2.4%	4.0%
	第2以下	2.8%	3.7%	4.8%	4.5%	3.1%	7.5%	3.4%	1.9%	5.7%	2.1%	4.0%
	p値	0.060	0.291	0.372	0.350	0.256	0.031*	0.611	0.937	0.046*	0.860	0.964

数値は選択率 (%)。第1志望者の選択率が50%以上の年度がある項目、および、10年平均、または、複数年度において、第1志望者と第2志望以下の者との間に統計的有意差が見られた項目を抽出。第1志望者の10年平均の選択率の高い項目順に記載。統計的有意差が見られた年度を太字・網掛けにしている。 : p<0.05 ** : p<0.01

4 考察とまとめ

問いの設定に対する調査結果を踏まえ、次の2点を指摘したい。

1点目は、本稿における1番目の問いとして設定した「共通テスト後の出願直前期に自己選抜を経て変更(決定)した受験校の志望順位は、基本的に第2志望以下となると考えてよいのか」についてである。

結果は、K大学一般選抜前期日程を経た入学者については、出願直前期に変更(決定)した受験校であっても、変更者の中の1/4前後の入学者が第1志望校として設定していた。もちろん、この中には国立大学へのこだわりはあっても志望校への強いこだわりはなく、共通テストの結果を踏まえて合格が見込める国立大学の中から第1志望校を決定した者など、必ずしも共通テスト前の第1志望校を断念したとはいえない

受験生も含まれている可能性がある。しかしながら、この結果は、少なくとも、K大学、および、K大学との併願関係が見られる国立大学では、出願直前期に受験校を変更(決定)した場合、必ずしも第2志望以下になるとは限らないことを示していると考えられる。つまり、これらの者は、出願直前期の受験校の変更(決定)を前向きに捉えることができ、合格して入学することになった場合の不満(不本意入学)の発生リスクを、肯定的な自己選抜によって予防できているといえるだろう。

2点目は、本稿における2番目の問いとして設定した「共通テスト後の出願直前期に自己選抜を経て変更(決定)した受験校を第1志望校として設定できる者の出願決定理由にはどのような特徴が見られるのか」についてである。

まず、出願直前期に変更した受験校を第1志望とした者の出願理由において、10年間を通して最も選択率が高かったのが、「1. 学びたい学部・学科がある」であった。この項目の選択率は全ての年度で80%を超え、10年平均においても第2志望以下の者との間に統計的有意差が見られた。この結果は、高校時代に大学入学後の学びたい学問領域を見据えていた者は、出願直前期に自己選抜を行い、受験校を変更（決定）しても、第1志望校として設定できる可能性を高めることを示している。つまり、これらの者は、大学入学後の学びを基準として複数の大学を志望校群として設定できるため、共通テストの結果に応じた出願直前期の変更であっても、志望校群の中からの選択であれば、前向きに出願校を設定できたケースが多かったことが考えられる。

次に選択率が高かったのが、「14. 入試の難易度（共通テストの得点）が合っている」であるが、本項目は「3. 結果」で指摘した通り、第1志望者よりも第2志望以下の者の選択率が10年平均で高かった。さらに、10年間の推移を見ると、第1志望者の選択率は2016年度の70.9%を最後に、その後は70%を下回り、2018年度以降は2022年度を除き第2志望以下の者との間に統計的有意差が見られる。この結果は、出願直前期に自己選抜を行い、かつ、変更後の受験校を第1志望にできる者は、出願決定理由における入試難易度への依存度が年度を追うごとに下がっている、もしくは、入試難易度への依存度を下げても、合格できる者が年々増加していることが示唆される。特に、2023年度については、実質倍率が1.7倍と過去10年間で最も低かったことから（表1）、合格の可能性は下がるものの共通テスト以前に決めていた第1志望校を入試難易度に依存せずそのまま受験し合格した者が増加し、結果として、共通テスト後の受験校決定者が例年より減少し（表4）、入学者の第1志望率を高めた可能性が考えられる（表3）。

最後に、出願直前期に変更（決定）した受験校を第1志望とする者と第2志望以下とする者の出願校の決定理由を、上記の2項目（「1. 学びたい学部・学科がある」「14. 入試の難易度（共通テストの得点）が合っている」）を含む29の質問項目（表2）についてそれぞれ比較した場合、第1志望者は入試難易度といった大学の入学段階の項目では、第2志望者以下よりも選択率が低い入試年度が目立った一方で、「1. 学びたい学部・学科がある」「2. 専門教育が充実している」「6. 授業内容がおもしろそう」「5. 実習教育が充実している」「10. 施設・設備が充実してい

る」など、いわゆる大学入学後の学びの内容や環境については第2志望以下の者よりも選択率が高い入試年度が目立った（表6）。この傾向は特に、2020年度以降を中心に見られ近年における特徴である可能性が指摘できる。

前述したように、出願直前期に変更（決定）した受験校を第1志望として設定できる者は、大学入学後の学びの内容や環境を第2志望以下の者よりも出願理由として重視する傾向が窺える。一方で、18歳人口の減少に伴う受験人口自体の減少という選抜の相対的な緩和によって、大学入学後の学びの内容や環境をより重視して志望校選択ができるようになってきたという側面があることも考えられる。いずれにしても、大学入学後の学びの内容や環境の重要性については、これまでも指摘されており、入学者における第1志望率を高める点においても重要であると言えるだろう。

参考文献

- 荻谷剛彦 (1986). 「閉ざされた将来像—教育選抜の可視性と中学生の『自己選抜』—」『教育社会学研究』**41**, 95-109.
- 荻谷剛彦 (1995). 『大衆教育社会のゆくえ—学歴主義と平等神話の戦後史』中公新書, 4-5.
- 螢雪時代 (2019). 『センター結果を最大限活かして出願しよう!』旺文社, 2020年1月号, 118-122.
- 木村拓也・林 篤裕 (2016). 「個別大学からみた大学入試センター試験の頑健性—合否入替り率を用いた検討—」『大学入試研究ジャーナル』**26**, 1-8.
- 高地秀明 (2014). 「入学者の出身県別に見た大学志願行動—平成26年度入学者に対する調査から（教育学部, 工学部について）—」『広島大学入学センター年報 第12号』平成26年8月31日, 10.
- 鈴木規夫 (2009). 「共通試験制度における大学・学部の層別化と選抜機能の評価」『大学入試センター研究紀要』**38**, 37-58.
- 寺下榮・村松毅・田中勝 (2008). 「一般入試志願者の受験行動に関する調査—募集要項の請求から入学手続まで—」『大学入試研究ジャーナル』**18**, 13-18.
- 内田照久・鈴木規夫・橋本貴充・荒井克弘 (2018). 「センター試験における大学合格率の停滞現象—自己採点による出願先の主体的選択が生み出す受験者の分散配置—」『日本テスト学会誌』**14**, No.1, 18-30.
- 吉村幸・木村拓也 (2010). 「新入生を対象とした入試広報活動に関する調査」『大学入試研究ジャーナル』**20**, 209-215